

中央情勢と新型コロナウイルス感染症対策について

理事長：阪口貴子

中央情勢等

コロナ禍の中、6月5日の当会の定期総会を会員の皆様のご協力(委任状出席)もと開会できました。ありがとうございました

(一社)全国手をつなぐ育成会連合会(全育連)は、4月1日に法人格を取得し7月31日に、滋賀県で定期総会(WEB会議)がありました。改選期で、久保厚子氏が会長に再任され、執行部体制も、4人から6人体制となり、又村あおい氏が常務理事・事務局長に就任されています。2020年度は、全育連主催等の集合形式による全国大会・近畿大会等が中止となりましたが、新たに、研修サポートとして、YouTubeチャンネルの開設や、関係機関との連携によるオンライン形式の研修、収録形式の研修の案内が、随時、事務局に発信されます。



8月7日には、来年度の報酬改定に向けて、厚労省の「障害福祉サービス報酬改定検討チーム」のヒアリング【オンライン会議(久保会長・又村あおい氏参加)】があり、県育成会の執行部もライブ配信を視聴することが出来ました。こんな時、同時に市町村へ配信が出来れば、タイムリーな情報提供ができます。これには、市町村のご協力が必要です。今後、ネット環境整備にご協力いただければ幸いです。また、「近畿手をつなぐ育成会連合会・連絡協議会(近畿連)」も、WEB会議による会議の再開に向けて動いています。

とはいえ、当会は、会員の高齢化が進む中で、会員の方々の隅々まで、ネット環境による情報提供には課題があります。そこで、部会運営やミニ研修につきましても、換気ができる広い会場で、人数制限をしての実施となります。情報提供として、この瓦版「げんき」にもできるだけ詳細に掲載させていただきます。

新型コロナウイルス感染症対策について

緊急事態宣言を解除して以降、政府は経済優先策に舵を切ったと思います。7月4日以後、奈良県においても、ほぼ毎日、新型コロナウイルス感染症の新規感染者が発生し、気がつけば、第2波が来ていました。7月以降、9月5日までの奈良県全感染者総数は520名です。県内事業所、飲食店、大学、高齢者施設でクラスターも発生しました。

そんな中、7月13日に奈良県育成会は、「親が感染したら?」「わが子が感染したら誰がわが子をみってくれるのか?」の会員の不安の声と共に奈良県新型コロナウイルス対策6,05方針に基づき、奈良県福祉医療部障害福祉課あてに質問票を提出しました。

その回答として、8月28日に、理事・市町村会長向け研修会に位置づけ、「新型コロナウイルス感染症対策・奈良県行政説明会」を開催しました。報告書と資料を別紙に掲載させていただきました。今後、より多く関係者に情報提供・共有をされることを願い、受講後の「意見書・要望書」を9月3日に奈良県福祉医療部・障害福祉課宛て

へ提出しています。



9月1日には、奈良県の荒井知事を本部長とした「第14回奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部会議」が開催されています。そこで「新型コロナウイルス感染症のかかる・対処方針と9月度補正予算(案)」が示されました。新型コロナウイルス感染症にかかる奈良県の三つの対処方針は、以下の通りです。

- ① 感染経路の類型を明確化し、類型に応じた明確な注意をする。
- ② 感染者を早期発見・即時隔離し、感染されたすべての方に入院治療・宿泊療養を提供する。
- ③ 重症化予防により、死亡や後遺症の発生をおさえる。 となっています。

補正予算額は、約252億円です。その中の感染拡大防止策の中には、社会福祉施設等の職員に向けて一斉・定期的なPCR検査の実施や、専門職による社会福祉施設等への実地指導も含まれています。また、経済活動の活性化策の「いまなら」キャンペーン(県内宿泊等の割引キャンペーン)も倍額の5億円が追加補正される予定です。また、9月4日には、国の方針として、コロナの疑いのある人は、まず身近な病院に電話した上で受診をする仕組みへ変更するという通知がありました。県は調整が必要となると思います。注視して参ります。

最後になりますが、市町村会長さん方には、「withコロナ」の時代に、会員の皆様とのつながり強化を目指し、地域課題の把握・育成会の役割の確認、地域の福祉の担い手、啓発活動等未来づくりにむけて決意の中で投稿いただきありがとうございました。日ごろのご尽力に、感謝いたします。コロナうつが気になります。会員さん方への心の支えをよろしく願いいたします。



感染予防のために、できること。

All we have to do to prevent infection is simple.
新型コロナウイルス | COVID-19